

《コーディネーター 森口健司》

(パネリストも思いをしっかりと受け止めながら)ありがとうございました。一番身近なところが一番難しいし、一番大事なことに भी なります。夫婦で、家族で、安心して、よろこびとして部落問題が語れる。そういうふうになりたいんですが、なかなか語り切れん。出し切れん。やっぱり、そういう切ない現実があるんです。

昨年「人権を語り合う中学生交流集会」で、この次、話してもらうチェリーさんに話をしてもらいました。非常にインパクトが語りが、中学生の心に染み込んでいきました。

その中学生集会がきっかけで、昨年度、徳島市のPTA連合会の研修会で吉成先生と2人で話をさせてもらいました。それは伸二さんが徳島市の小学校でPTA会長をされているということで、そういう場が設定されました。

今日も来られていますが、その時も、その会場にご主人が来られて、その講演の後の語り合いの場で、部落出身の女性と結婚した思いと、ご自身が受けてきた中学時代の部落問題学習について語っていただいたんです。その時も、すごく素敵なお夫婦だなと思いました。

ある意味、夫婦の中で、一番言いにくいことかも知れません。その一番言いにくいことをよろこびを持って語り合える関係。そういう家族の絆というのが生まれていったら嬉しいなと思います。

(いっぱいの笑顔で)それではこの後、チェリーさん。よろしくお願いします。拍手をお願いします。言葉がバンバン出ますので楽しみにしてください。(拍手)

《パネリスト 柳本 歩》

私の生い立ち

(笑顔で)こんにちは。柳本 歩と申します。先ほどから先生が「チェリーさん」「チェリーさん」と言っているの、何事かなと、皆さん思われている方もいらっしゃるのかなと思うんですけど、中学校時代のあだ名に「チェリー」というものがついていて、中学校の時に吉成先生に人権教育を教えてもらっていました。なので、いろんな人となつなげてもらうのに、吉成先生が紹介してもらう時に「チェリー」と呼ばれています。皆さん、今日は名前を正しく覚えて帰ってくれたらなんて思っています。

立って話をするときすごく恥ずかしいので、座らせてもらって話ができたと思います。

簡単な自己紹介から始めさせていただきます。私は今、徳島市川内町に住んでいます。出身は阿波市吉野町の出身で、中学校の時に徳島市応神町に親の離婚のため引っ越しをしました。母親は徳島市一宮町の生まれで、母の里が被差別部落と言われています。母も人権教育を一生懸命取り組んでいる家系でして、母から私が被差別部落の出身であるということを聞いて育ってきました。

自分にとっての人権教育って何だったんだろう

今日、本当に、中野さんもおっしゃっていたんですけど、「何を話しようかなあ」というところがあって、今日ここに来てくれている人って、やっぱり考えるところがあるからここに来てくれているんだろうなっていうのがあって。自分にとって人権教育って何だったかということを少し振り返ってみました。

中学校の時に吉成先生に出会って、結構熱心に学習会とか中学生集会に参加させてもらって、いろんな人と出会わせていただいたっていうのが、実際に、深く記憶に残っています。その人たちと全て今つながっているかと考えると、つながっている子もいるんですけど、大人になってすごく減りました。

会社の経営をするようになって感じること

ただ、今大人になってきてから思うのは、あの時した勉強が無駄になっていると感じることはないです。私は今、すごく小さいんですけど、徳島市で会社経営をしています。元々は郵便局員でした。郵便局はすごく古い体制の中、仕事をするところなんですけど、やはり、「障がい者枠」ということで仕事をされている方もいらっしゃいますし、健常者の方でも、やはりいろいろな年齢の高い人から低い人までいるような会社です。そんな中でも、仕事をしている中で意見の相違とかそういうものが出てくるとなったら、私は人権教育をしてきたから、そういう人たちとも胸を張って話ができたなって思っています。

「女性だから」という部分では、郵便局の中でも女性はすごく少ないです。やはり意見が通りにくいという場面もいっぱいあります。やっている仕事の事務というところにおいても、自信を持てる仕事なのかって考えることもありました。

でも、やっぱりそんな人の中でも、これはすべき仕事だったと自信を持ってやって来て、それを卒業して、自分で会社を経営するようになった今、人を雇うっていう中で、責任をすごく感じるようになりました。

自分が面接をして、自分のもとで働いてもらって、自分がお給料を払ってって考えた時に、その人の価値ってというのは、その人が誰かから評価されるべきものではないんだけど、でも、私たちは賃金でしかその人を評価できない部分もあるんですね。そういう所で悩ましいなと思うこともいっぱいあります。

お金は渡すけど。やってもらわないといけない仕事もあるし、高みを目指してほしいって思うところもいっぱいあるし、でも、その人にとってのその能力がマックスなのであれば、それは、私たちが維持をさせてあげなければいけない状況にもなるだろうし。

そういうことで、学んできた人権教育とつなぎ合わせるようなことも、やはり多々あります。というのが私の仕事というのが軽微作業、暑い中なんです、シールを貼ったり梱包をしたりというような簡単な仕事にはなっています。また、その中でも人が少ない以上、仕事をする以上連携を取ることも非常に大事なことになるんです。

軽微な仕事であることから、精神的な病気を抱えていたりだとか、就職をするのにはちょっと不適合な状況にあるのかなというような経験を持っておられる方もいらっしゃいます。そういう人をどうやって使っていくかとか、働いてもらうかとかということを相談する中でも、自分の人権教育をもとにした話を、今主人と話をしながら経営をできているという状況にあります。

家族の中で

～夫とのこと～

（優しい笑顔で）ただ、さきほど森口先生が「いいご主人ですね」ということを言ってくれていたんですけど、やはり、ぶつかることは滅茶苦茶あります。年齢では8歳離れているんですけど、考え方が「男女だから」という部分でもないんですが、「こうあるべき」というところはお互いすごく持っています。

仕事である以上こうでしょうとか、それはここまではしてもらわないかんでしょうとかね、それぞれがプライドを持って生きてきたからこそあるところだなと思うんですけど、滅茶苦茶ぶつかって、夜中じゅう泣きながらケンカをすることもあります。

でも、その中でも自分が自信を持って言えているっていうのは、こういう場を与えてもらっている今だったり、ここに来るまでに支えてくれた仲間だったり、この人権教育があったからかなということだと思います。

～子どもたちとの関わりを通して～

私も子どもがいて、3人います。長女が小学校5年生、真ん中が5歳。下が4歳。で、下2人は男の子です。最近流行りっていうんでしょうか、「流行り」っていうのは言葉としてどうかというのもあるんですが、よく聞く名目として「ステップファミリー」というような形です。

皆さん、知らない方もいらっしゃると思うんですけど、長女と主人は血のつながりがありません。私は部落差別によって結婚を反対されて、長女を未婚で産みました。その後主人と出会って、主人との血縁の子が下の4歳と5歳の子がいる形です。長女は小学校5年生なので、そろそろ人権教育に力を入れて欲しいというか、興味を持ってもらえんのかなという思いを持ちながら、吉成先生に話をされていて、最近、こういう話をさせて頂くようになった次第です。

主人も私も娘にはすごく愛情を注いでいるつもりですし、いろんなことで、「あなただったらどうする？」というものの質問を投げかけているつもりです。でも、多分彼女は彼女で考えるところがまだほわっとしていたり、女の子なので、少しませているような考え方をするとところがあったりするとかします。

主人にも前の奥様がいらっしゃるって、3人の子どもがいます。その3人の子どもはいまだに主人に会いに来てくれることが月1回くらいあって、私たちはその子どもたちと交流をさせています。なので、6人姉妹なんだよという形で育てています。

その中でも、主人の子どもたちには、人権教育をあまり話していません。それはやはり手もとにいる子どもじゃないからということもあります。話すことが恥ずかしいことだからということではなくて、でも、相手方の親御さんはそれを推奨していないとなれば、なかなか入れない部分だなと思っています。

これから先、言える日が来るのかどうか。それはまだ見えていません。でも、聞かれた時は胸を張って、私たちが学んできたことっていうのは伝えたい。いつか、胸を張って言えるその日が来るまでという受け身から、「知って欲しい」「聞いて欲しい」「もっと理解を深めて欲しい」って思えるような自分であれたいっていうのが目標値です。

(一言一言噛みしめるように)でも、叶えられるのかどうかって、13歳、14歳から学んできて、35歳になった今もまだわからないんです。それくらい、部落問題については悩んできたし、辛いなっていう経験がありました。娘の父親は、もちろん今の主人であると思うところはありますが、私は、娘には父が2人いるということも伝えていきます。

(思い切ったように、ゆっくりと、そしてしっかりと)でも、その父の1人は差別をした人なんだよということは、やはり言えません。なぜ結婚しなかったのかということについて聞かれた時には、部落差別っていうものがあってねという話はします。それでも、あなたの父が差別をした人なんだよということは言えません。だって、その人にはその人の立場があって、その人しか見えてない世界観があったんだろという状態でしか、私は受け入れてあげられないくらい憎んでしまったんだなって思いました。

ここに参加している若い皆さんへ

若い子たちがたくさん来てくれているので、皆さんがこれから結婚をされる時、ない問題ではないんだとしっかり考えておいて欲しいと思います。ないって思っているわけではなかったんですよ。私が勉強している時も。あると思ったから勉強していたんです。母もそういう問題に関わっていたから。

でも、自分になって初めて思うんです。「何で自分が…」って。「こんなに理不尽なことはない」と。「生まれた場所だけで何がそんなに違う？」って思うし、「学んできたから私は部落出身だと胸を張っていったのに、それが問題になるのか」という状況はありました。

(笑顔でじっくりと語りかけるように)なので、皆さんは、部落だけじゃなくてどんな人権教育もそうなんですが、自分が関わるわけがないとは絶対に思わないで欲しい。どんな形であれ関わるが出てきます。せっかくこの場に来てくれたのであれば、それをやっぱり心に刻んで帰って欲しいなって思うし、今日聞いた話を誰かに少しでもいいんです。こんなところに行ってきたんだよでもいいです。アウトプットをしてください。

それによって自分の考えとか、思いとかっていうのは固まるんですって。これは私も会社をし出してから師匠の受け売りなんですけど、インプットして、アウトプットする。インプットだけではどうにもできなくて、アウトプットすることによって自分の思いが定まって来るよって言われました。

なので皆さん、話のまとまらない部分もいっぱいあったんですが、今日聞いた話で、私の名前だけでもいいです。チェリーさんという人が居ったというだけでもいいので、今日お家に帰ってからとか、友だちとか、誰かに何かを話してみてください。そうすることで何かの一步になるのではないかと思います。はい、ありがとうございました。(拍手)